CLUSTERPRO
MC ProcessSaver 1.0 for Linux
ユーザーズガイド
（プロセス死活情報採取機能）

- はじめに
- 構成
- インストールおよびアンインストール
- セットアップ手順
- 運用手順
- syslog メッセージ
- 注意・制限事項
- リファレンス

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 for Linux（以後 ProcessSaver と記載します）のプロセス死活情報採取機能について記載したものです。

（1） 商標および登録商標

- ✓ Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat,Inc.の登録商標または商標です。
- ✓ Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における、登録商標または商標です。
- ✓ Itanium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ✓ その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- ✓ なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

目 次

1 はじめに

1.1 対応 OS

本機能は以下のオペレーティングシステムに対応します。
サポート対象ハードウェアは、IA32 および EM64T 搭載マシンです。

Red Hat Enterprise Linux AS 3.0
Red Hat Enterprise Linux AS 4.0
Red Hat Enterprise Linux ES 3.0
Red Hat Enterprise Linux ES 4.0
Red Hat Enterprise Linux 5
Red Hat Enterprise Linux 6
Oracle Enterprise Linux 5
Oracle Enterprise Linux 6

1.2 概要

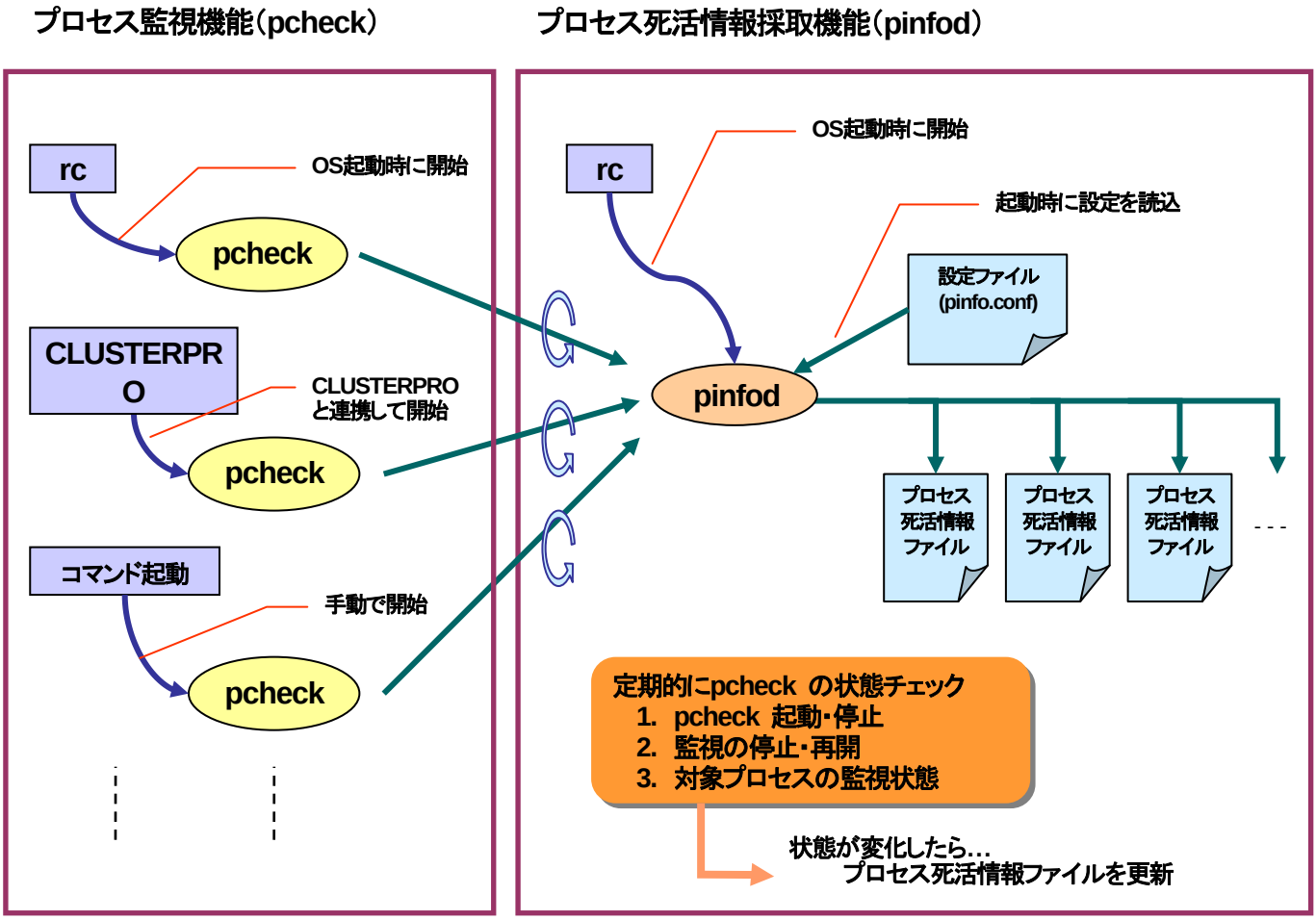
本機能は、MC ProcessSaver 1.0 for Linux（以後 ProcessSaver と記載します）の拡張機能として提供されます。
ProcessSaver は、あらかじめ SG ファイル (pfile) で定義されたプロセスの死活監視を行い、
予期せぬ障害で異常終了した場合や動作不能状態を検出した場合に、プロセスの自動再開を行う製品です。

ProcessSaver が監視対象プロセスの消滅を検出した場合には、syslog にメッセージを出力することで
どの時点で監視対象プロセスが消滅したか、容易に判断することができます。
ただし、過去に消滅し自動再開によって救済されたプロセスについては、syslog がローテートされた場合等
判断できない場合があります。
また、プロセスが消滅した日時ではなく、稼動していた時間は、syslog のみで特定することは困難となります。

本機能では、ProcessSaver による監視状態（監視対象プロセスの監視開始、監視停止、消滅検出、
リトライオーバ等）を定期的にプロセス死活情報ファイルに出力します。
本ファイルを確認することで、長期的なプロセスの稼動状況の分析を行うことができます。
プロセス死活情報ファイルは、テキストファイルとなっており pcheck 単位に出力されるため
プロセス稼動状況の分析を容易に行うことが可能です。

注意
本機能は、ProcessSaver がインストールされ、動作した状態でのみ使用可能です。
そのため、本マニュアルは ProcessSaver の機能、動作を理解していることを前提として
記載しております。あらかじめご了承ください。
また、ProcessSaver の基本機能につきましては、『CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 for Linux
ユーザーズガイド』を参照してください。

ProcessSaver および本機能の動作イメージ図



2 構成

2.1 物件の形式

ファイル名 clusterpro-mc-pspf-w.x.y-z.i386.rpm
clusterpro-mc-pspf-w.x.y-z.x86_64.rpm

（注）シリーズで機能強化があるとバージョン番号 w.x.y-z の w,x,y,z が更新されます。

2.2 ディレクトリ・ファイル構成

本機能インストール時のディレクトリ、ファイルの構成は以下のとおりです。

ディレクトリ	ファイル	概要
/opt/HA/PS/bin/	pinfod	HA/ProcessSaver のプロセス死活情報を採取するデーモンプロセス
/var/opt/HA/PS/conf/	pinfo.conf	プロセス死活情報採取機能の設定を定義するファイル
	pinfo.conf.default	プロセス死活情報採取機能の設定を定義するファイルのデフォルト
/etc/init.d/	pinfod_ctrl	プロセス死活情報採取デーモンの起動・停止スクリプト
/etc/rc2.d/	S99pinfod	プロセス死活情報採取デーモンの起動用 rc ファイル（リンクファイル）
	K99pinfod	プロセス死活情報採取デーモンの停止用 rc ファイル（リンクファイル）
/etc/rc3.d/	S99pinfod	プロセス死活情報採取デーモンの起動用 rc ファイル（リンクファイル）
	K99pinfod	プロセス死活情報採取デーモンの停止用 rc ファイル（リンクファイル）
/etc/rc5.d/	S99pinfod	プロセス死活情報採取デーモンの起動用 rc ファイル（リンクファイル）
	K99pinfod	プロセス死活情報採取デーモンの停止用 rc ファイル（リンクファイル）
/etc/sysconfig/	pinfoconf	OS 起動時の動作を制御するファイル

本機能動作時に使用するディレクトリ、出力ファイルの構成は以下のとおりです。

ディレクトリ	ファイル	概要
/var/opt/HA/PS/data/	[pfile 名]_[pfile に定義された IPCKEY].dat	プロセス死活情報ファイル
	[pfile 名]_[pfile に定義された IPCKEY].dat.[YYYYMMDDhhmmss]	プロセス死活情報ファイルのバックアップファイル (YYYYMMDDhhmmss は、プロセス死活情報ファイルの最古のデータ日時)
/var/opt/HA/PS/log/	pinfo_trace.log	プロセス死活情報採取デーモンのトレースログファイル
	pinfo_trace.log.save1	プロセス死活情報採取デーモンのトレースログのバックアップファイル

注意

プロセス死活情報ファイルの出力ディレクトリは、デフォルト設定時の構成となります。
設定ファイルをカスタマイズすることで任意のディレクトリにファイルを出力することができます。
カスタマイズ手順については、本マニュアルの「4.2 設定ファイルについて」を参照してください。

2.3 マニュアル

本機能のマニュアルは PDF 形式で CD-R 媒体に含まれています。

マニュアル名	ファイル名
CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 for Linux (プロセス死活情報採取機能) ユーザーズガイド	Linux/option/etc/pinfoget/manual/Linux_PSPF_readme.pdf

3 インストールおよびアンインストール

3.1 インストール手順

本機能のインストール手順は以下のとおりです。

1. 本機能を含む CD-R 媒体を CD-ROM(DVD-ROM) ドライブに挿入します。

2. mount(8) コマンドを使用して、CD-R 媒体をマウントします。
(/dev/cdrom は CD-ROM(DVD-ROM) ドライブのデバイスファイル名)

```
# mount  /dev/cdrom  /mnt/cdrom
```

3. rpm(8) コマンドを使用して、本機能のパッケージをインストールします。

● 32bit OS（IA32）の場合

```
# rpm  -ih  /mnt/cdrom/Linux/option/etc/pinfoget/rpm/clusterpro-mc-pspf-w.x.y-z.i386.rpm
```

● 64bit OS（EM64T）の場合

```
# rpm  -ih  /mnt/cdrom/Linux/option/etc/pinfoget/rpm/clusterpro-mc-pspf-w.x.y-z.x86_64.rpm
```

4. rpm(8) コマンドを使用して、本機能のパッケージが正しくインストールされたことを確認します。

```
# rpm  -qa  |  grep  clusterpro-mc-pspf
clusterpro-mc-pspf-w.x.y-z.******
```

注意

シリーズで機能強化があるとバージョン番号 w.x.y-z の w,x,y,z が更新されます。
******部分は OS のバージョンおよびインストールしたパッケージの名称に依存します。

5. マウントした媒体を umount(8) コマンドを使用してアンマウントします。

```
# umount  /mnt/cdrom
```

6. 媒体を CD-ROM(DVD-ROM) ドライブから取り出します。

以上でプロセス死活情報採取機能のインストールは終了です。

3.2 アンインストール手順

本機能のアンインストール手順は以下のとおりです。

1. 本機能を実行している場合、以下のコマンドを使用して pinfod(1M) を終了します。

```
# /etc/init.d/pinfod_ctrl stop
```

2. ps コマンドを実行し、本機能が正しく終了されたことを確認します。

```
# ps -ef | grep pinfod
```

停止されていれば、何も表示されません。

3. rpm(8) コマンドを実行して、アンインストールを行います。
(/dev/cdrom は CD-ROM(DVD-ROM) ドライブのデバイスファイル名)

```
# rpm -e clusterpro-mc-pspf
```

以上でプロセス死活情報採取機能のアンインストールは終了です。

4 セットアップ手順

4.1 本機能の導入手順

本機能の導入手順は以下となります。

1. ProcessSaver（本体）のインストール確認
   ProcessSaver（本体）がインストールされていることを確認します。
   インストールされていない場合は、インストールします。
   インストール手順および確認方法については、『CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 for Linux リリースメモ』を参照してください。

2. インストール
   本機能をインストールします。
   インストール方法については、本マニュアルの「3.1 インストール手順」を参照してください。

3. 設定ファイルのカスタマイズ
   必要に応じて設定ファイルの各パラメータ値をカスタマイズします。
   設定ファイルを変更することで、プロセス死活情報ファイルの出力ディレクトリや
   バックアップファイル数を変更することができます。
   設定ファイルのカスタマイズ方法については、本マニュアルの「4.2 設定ファイルについて」を
   参照してください。

4. rc からの自動起動を設定
   OS 起動と連携し、本機能を起動する場合は rc からの自動起動を設定します。
   rc からの自動起動を設定する方法については、本マニュアルの「4.3 rc からの自動起動について」
   を参照してください。

5. 起動
   本機能を手動で起動します。

   (1) /etc/sysconfig/pinfoconf を編集し、PINFO_START の値を 0 から 1 に変更します。

```
# cat /etc/sysconfig/pinfoconf | grep PINFO_START
# Starting ProcessSaver option(pinfod) PINFO_START=1
PINFO_START=1
```

   (2) 起動コマンドを実行し、起動します。

```
# /etc/init.d/pinfod_ctrl start
```

   (3) ps コマンドを実行し、本機能が正しく起動されたことを確認します。

```
# ps -ef | grep pinfod
root     481       1    0 15:41:35 pts/tc       0:00 /opt/HA/PS/bin/pinfod
```

注意
OS の再起動は不要です。

以上で本機能の導入は完了です。

4.2 設定ファイルについて

1. 設定ファイルの配置

   本機能の動作を定義する設定ファイルは以下です。

   /var/opt/HA/PS/conf/pinfo.conf

   注意

   本設定ファイルはデフォルト値があらかじめ設定されています。
   基本的に設定ファイルの値をカスタマイズする必要はありませんが、
   システム要件などにより変更することが可能です。

2. 設定ファイルの変更手順

   設定ファイルのカスタマイズはエディタ等を使用してください。

   注意

   設定ファイルを変更した場合、本機能のデーモンプロセスを再起動する必要があります。
   再起動を行っていない場合には、設定ファイルの変更内容は反映されません。
   再起動手順については、本マニュアルの「5.1 起動と終了」の「3. 再起動」を参照してください。
   OS の再起動は不要です。

3. 変更可能なパラメータおよび設定値

   変更可能なパラメータおよび設定値は以下です。

システム定義	
項目	説明
OUTPUT_DATA_FILE _PATH	プロセス死活情報ファイルの出力先ディレクトリを指定します。 指定可能なディレクトリ名の長さは 512 文字以内です。 デフォルト値は **/var/opt/HA/PS/data** です。 あらかじめ指定する出力先ディレクトリを作成しておく必要があります。 指定された出力先ディレクトリが存在しない場合、デフォルトのディレクトリ配下に出力されます。 出力先ディレクトリは絶対パスで指定してください。 ファイル名を指定することはできません。
MONITOR_FILE_NUM	プロセス死活情報ファイルのバックアップ数を指定します。 指定可能な値は 1～10（個）です。 デフォルト値は 1（個）です。

4.3 rc からの自動起動について

rc からの自動起動は、本機能インストール時には設定されていません。
OS 起動時に rc から自動起動を行う場合は、以下の設定を行う必要があります。

1. 設定ファイル（/etc/sysconfig/pinfoconf）をエディタ等で以下のように変更します。

   PINFO_START の値を 0 から 1 に変更します。

   ```
   PINFO_START=1
   ```

   上記のように設定することで、rc からの自動起動が有効になります。

   ※自動起動を無効にする場合は、0 を設定します。

5 運用手順

5.1 起動と終了

本機能の運用手順は以下のとおりです。

1. 起動

(1) 起動コマンドを実行し、起動します。

```
# /etc/init.d/pinfod_ctrl start
```

(2) ps コマンドを実行し、本機能が正しく起動されたことを確認します。

```
# ps -ef | grep pinfod
root     481       1   0 15:41:35 pts/tc       0:00 /opt/HA/PS/bin/pinfod
```

2. 終了

(1) 終了コマンドを実行し、終了します。

```
# /etc/init.d/pinfod_ctrl stop
```

(2) ps コマンドを実行し、本機能が正しく終了されたことを確認します。

```
# ps -ef | grep pinfod
```

停止されていれば、何も表示されません。

注意
本機能による処理を実行中の場合、処理の完了を待ち合わせるため
停止にしばらく時間がかかる場合があります。

3. 再起動

(1) 再起動コマンドを実行し、再起動します。

```
# /etc/init.d/pinfod_ctrl restart
```

(2) ps コマンドを実行し、本機能が正しく再起動されたことを確認します。

```
# ps -ef | grep pinfod
root     481       1    0 15:41:35 pts/tc       0:00 /opt/HA/PS/bin/pinfod
```

再起動前と異なる PID で起動されたことを確認します。

注意
再起動にはしばらく時間がかかる場合があります。
設定ファイルを変更した場合は、本機能を再起動する必要があります。
再起動を行わない場合、設定ファイルの変更内容は反映されません。

5.2 設定を変更する場合

本機能の設定を変更する場合は、本機能を停止して設定ファイル (pinfo.conf) を編集したあと、本機能を起動してください。

設定ファイルのカスタマイズ方法については、本マニュアルの「4.2 設定ファイルについて」を参照してください。

5.3 本機能によって作成されるファイル

デフォルト設定の場合、本機能を起動すると以下のファイルを作成します。

/var/opt/HA/PS/data/[pfile 名]_[pfile に定義された IPCKEY].dat （プロセス死活情報ファイル）
/var/opt/HA/PS/log/pinfo_trace.log （トレースログファイル）

1. プロセス死活情報ファイル

プロセス死活情報ファイルから、以下の情報を得ることができます。

本ファイルは、プロセスの死活情報を定期的に記録します。
デフォルト設定の場合、最新の情報は **/var/opt/HA/PS/data/[pfile 名]_[pfile に定義された IPCKEY].dat** に保存されます。
ファイルサイズが 1MByte を超えると、1 世代バックアップされます。
バックアップファイルは、以下のファイル名で保存されます。

[pfile 名]_[pfile に定義された IPCKEY].dat.[YYYYMMDDhhmmss]

※[YYYYMMDDhhmmss] は、プロセス死活情報ファイル内で最古のデータの取得年月日と時刻となります。

（例）バックアップファイル中の最古のデータの取得年月日、時刻が
2011 年 2 月 1 日 12 時 15 分 00 秒の場合、バックアップファイル名は以下となります。
[pfile 名]_[pfile に定義された IPCKEY].dat.20110201121500

プロセス死活情報ファイルの出力先は、必要に応じて変更が可能です。
設定方法については、本マニュアルの「4.2 設定ファイルについて」を参照してください。

注意
出力ファイル名を変更することはできません。

プロセス死活情報ファイルに含まれる情報は以下のとおりです。

【基本情報】

情報名	タグ名	備考
ホスト名	HOSTNAME	-
pfile 名	PFILE	-

【プロセス死活情報(更新日時)】

情報名	タグ名	備考
更新日時	DATE	YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式 (YYYY:年、MM:月、DD:日、hh:時、mm:分、ss:秒)

【プロセス死活情報(プロセス情報)】

情報名	タグ名	備考
pent_id	PENTID	-
プロセスID	PID	-
プロセスの状態	STATUS	(*1) 参照
再起動回数	RESTART_COUNT	-
プロセス個数監視の状態	MIN_PROC_COUNT_STATUS	(*2) 参照
グループ名	GROUP_NAME	(*3) 参照
グループの状態	GROUP_STATUS	(*4) 参照
プロセス名	PNAME	() 丸括弧で囲んだ形式
プロセス名の検索条件となる文字列	INCLUDE_STRINGS	(*5) 参照 () 丸括弧で囲んだ形式

(*1) STATUS にはプロセスの状態が出力されます。

プロセス状態	説明
Up	プロセス起動
Down	プロセス停止
Retry_over	プロセス再開リトライオーバ
Unknown	状態不明(未監視状態など)

(*2) MIN_PROC_COUNT_STATUS にはプロセス個数監視の状態が出力されます。

プロセス状態	説明
OK	プロセス個数監視成功
NG	プロセス個数監視失敗
Unknown	状態不明(未監視状態など)

※ pfile の個別部情報 (PENT) に min_proc_count オプションを設定している場合のみ出力されます。
min_proc_count オプション未指定時は、-(ハイフン) が出力されます。

(*3) GROUP_NAME にはグループ名が出力されます。

※ pfile の個別部情報 (PENT) に grouptag オプションを設定している場合のみ出力されます。
grouptag オプション未指定時は、-（ハイフン）が出力されます。

(*4) GROUP_STATUS にはグループ単位の監視状態が出力されます。

プロセス状態	説明
Up	プロセスグループ起動
Down	プロセスグループ停止
Retry_over	プロセスグループ再開リトライオーバ
Unknown	状態不明（未監視状態など）

※ pfile の個別部情報 (PENT) に grouptag オプションを設定している場合のみ出力されます。
grouptag オプション未指定時は、-（ハイフン）が出力されます。

(*5) INCLUDE_STRINGS にはプロセス名を特定するための文字列が出力されます。

※ pfile の個別部情報 (PENT) に include_strings オプションを設定している場合のみ出力されます。
include_strings オプション未指定時は、-（ハイフン）が出力されます。

注意

ひとつの pfile で複数プロセスの監視を設定している場合には、
監視対象プロセスの状態がひとつでも変更になると、すべての監視対象プロセスのプロセス死活情報が出力されます。

【最終更新日時情報】

情報名	タグ名	備考
最終更新日時	UPDATE	YYYY/MM/DD hh:mm:ss 形式 （YYYY：年、MM：月、DD：日、hh：時、mm：分、ss：秒）

以下はプロセス死活情報ファイルの例です。

```
HOST:host1  ← ホスト名
PFILE:/tmp/st/base/pfile1  ← pfile 名
INDEX PENTID PID STATUS RESTART_COUNT MIN_PROC_COUNT_STATUS GROUP_NAME GROUP_STATUS
PNAME INCLUDE_STRINGS  ← 出力情報 INDEX
DATE:2010/11/02 17:30:31  ← プロセス死活情報（更新日時）
1  1201  Up    0    OK    groupA  Up    (proc1)（aaa&bbb）
2  1359  Up    0    -     groupA  Up    (/opt/HA/PS/bin/pcheck01) (-)   } プロセス死活情報（プロセス情報）
DATE:2010/11/03 18:21:10
1  1201  Down  0    OK    groupA  Down  (proc1)（aaa&bbb）
2  1359  Up    0    -     groupA  Down  (/opt/HA/PS/bin/pcheck01) (-)
UPDATE:2010/11/04 12:00:00  ← 最終更新日時
```

2. トレースログファイル

トレースログファイルでは、以下の情報を得ることができます。

本ファイルは、本機能の内部ログファイルとなります。
特に意識して確認する必要はありません。
ファイルサイズが 5MByte を超えると、1 世代バックアップされます。
バックアップファイルは、以下のファイル名で保存されます。

pinfo_trace.log.save1

注意

通常は特に意識する必要はありませんが、障害発生時には本ファイルの採取および保存が必要となります。
出力ディレクトリおよびファイル名を変更することはできません。
また、出力可否について変更することはできません。

6 syslog メッセージ

6.1 フォーマット

May 24 09:35:26 hostname pinfod[yyyy]: ***msg***

- pinfod :コマンド名
- yyyy :pid
- msg :メッセージ

syslog の facility と level は以下の通りです。

facility : LOG_USER
level : LOG_INFO または LOG_WARNING

6.2 本機能が出力する syslog メッセージ

設定ファイル等の不正に関するメッセージ

- ***SG file open error. filename=ファイル名, errno=xxx***
  設定ファイルの open に失敗しました。
- ***SG file is illegal parameter. filename=ファイル名.***
  設定ファイルに不正な値が含まれています。
- ***MONITOR_FILE_NUM was illegal value. (指定された値)***
  MONITOR_FILE_NUM に数値以外が指定されました。
- ***MONITOR_FILE_NUM was 0 or nothing, it changed to default value(デフォルト値).***
  MONITOR_FILE_NUM に 0 が指定されたか、何も指定されていません。
  デフォルト値を設定します。
- ***MONITOR_FILE_NUM was smaller than 0, it changed to minimum value(最小値).***
  MONITOR_FILE_NUM に最小値より小さい値が指定されました。
  最小値を設定します。
- ***MONITOR_FILE_NUM larger than maximum values,***
  it changed to maximum value(最大値).
  MONITOR_FILE_NUM に最大値より大きい値が指定されました。
  最大値を設定します。
- ***OUTPUT_DATA_FILE_PATH (指定されたパス) was too long.***
  it changed to the default value(デフォルトパス).
  OUTPUT_DATA_FILE_PATH に指定したディレクトリ名が長過ぎます。
  デフォルトパスを設定します。
- ***OUTPUT_DATA_FILE_PATH (指定されたパス) was not found.***
  it changed to the default value(デフォルトパス).
  OUTPUT_DATA_FILE_PATH に指定されたパスが見つかりません。
  デフォルトパスを設定します。
- ***OUTPUT_DATA_FILE_PATH (指定されたパス) was not directory,***
  it changed to the default value(デフォルトパス).
  OUTPUT_DATA_FILE_PATH に指定されたパスはディレクトリではありません。
  デフォルトパスを設定します。

内部エラーに関するメッセージ

- ***LANG putenv error.***
  LANG の設定に失敗しました。
- ***fseek(3) fail. filename=ファイル名, errno=xxx***
  内部エラーが発生しました。
  サポートセンターに連絡してください。
- ***fread(3) fail. filename=ファイル名, errno=xxx.***
  内部エラーが発生しました。
  サポートセンターに連絡してください。
- ***popen(3S) fail. (xxx) errno=yyy***
  内部エラーが発生しました。
  サポートセンターに連絡してください。
- ***malloc(3) fail.***
  内部エラーが発生しました。
  サポートセンターに連絡してください。
- ***malloc(3) fail (XXX).***
  内部エラーが発生しました。
  サポートセンターに連絡してください。
- ***malloc(3) fail. Get pent information fail.***
  内部エラーが発生しました。
  サポートセンターに連絡してください。
- ***Get pcheck information fail.***
  内部エラーが発生しました。
  サポートセンターに連絡してください。

その他 pinfod の動作に関するメッセージ

- ***ProcessSaver is not installed.***
  ProcessSaver (本体) がインストールされていません。
  ProcessSaver をインストールしてください。
- ***Output file open error(xxx). filename=ファイル名, errno=xxx***
  プロセス死活情報ファイルの open に失敗しました。
  1 回分の出力データがスキップされます。
  本事象は特に問題ありませんが、頻発する場合、サポートセンターに連絡してください。
- ***Output file date error(xxx). filename=ファイル名.***
  プロセス死活情報ファイル内の日付が不正です。
  プロセス死活情報ファイルを不正ファイルと判断し、バックアップを行います。
- ***Output directory open error. dirname=ディレクトリ名, errno=xxx***
  出力ディレクトリの open に失敗しました。
- ***Retryover infomation maybe lost(xxx). filename=ファイル名***
  リトライオーバ情報が失われた可能性があります。
- ***Retryover file date error. filename=ファイル名***
  リトライオーバ情報内の日付が不正です。

7 注意・制限事項

7.1 注意事項

- 本機能を導入するにあたり、以下の作業が必要です。
  - 本機能では ProcessSaver のプロセス監視機能を利用するため、
    導入する環境に ProcessSaver をインストールする必要があります。
    すでにインストール済みの場合は不要です。
  - 本機能のインストールが必要です。
- 本機能の起動／終了は、必ず本機能提供のコマンド (/etc/init.d/pinfod_ctrl) を使用してください。
- 本機能は以下の Linux 用です。

  Red Hat Enterprise Linux AS 3.0
  Red Hat Enterprise Linux AS 4.0
  Red Hat Enterprise Linux ES 3.0
  Red Hat Enterprise Linux ES 4.0
  Red Hat Enterprise Linux 5
  Red Hat Enterprise Linux 6
  Oracle Enterprise Linux 5
  Oracle Enterprise Linux 6

7.2 制限事項

ありません。

8 リファレンス

名称

pinfod(1M) - プロセス死活情報採取デーモン

構文

pinfod

機能説明

pinfod は、ProcessSaver のプロセス死活情報採取デーモンです。
ProcessSaver で監視を行っているプロセス死活情報の採取を行ないます。

本デーモンの起動、終了手順は以下となります。

/etc/init.d/pinfod_ctrl start	プロセス死活情報採取デーモンを起動します。
/etc/init.d/pinfod_ctrl stop	プロセス死活情報採取デーモンを終了します。
/etc/init.d/pinfod_ctrl restart	プロセス死活情報採取デーモンを再起動します。

終了ステータス

デーモン起動に成功すると 0 を返し、失敗すると 0 以外を返します。

注意事項

- 本デーモンの起動／終了は、必ず本機能提供のコマンド (/etc/init.d/pinfod_ctrl) を使用してください。
- 本デーモンは、ProcessSaver のプロセスである pcheck(1M) のプロセス監視情報を
  定期的に採取するデーモンのため、pcheck(1M) が起動していない場合には情報採取を行いません。

関連項目

pcheck(1M)

CLUSTERPRO
MC ProcessSaver 1.0 for Linux
ユーザーズガイド
（プロセス死活情報採取機能）

2012 年 9 月　第　1　版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目７番地１号
TEL （03）3454-1111（代表）

P

保護用紙